学習院大学新聞

発行所
学習院大学新聞社
〒171-8588東京都豊島区目白1丁目5番1号
電話03(3986)0221内線2607
http://www-ce.gakushuin.ac.jp/press/
press@gakushuin.ac.jp
発行人・編集人　長谷川さよ
年間500円

悲願の優勝杯奪還

正式・一般種目ともに優勝
総合優勝　通算44回目

10月22日から24日にかけて、武蔵大学にて第55回四大学運動競技大会が開催されたが、大会期間中は天候に恵まれ、正式、一般、教職員3部門で4大学が競い合った。

本学は正式種目、一般種目ともに優勝し、見事に総合優勝を果たした。

ゴールの瞬間、うれしさのあまり涙をこらえきれない大野選手

正式種目

夢のたすき繋がる　男女駅伝

【24日　駅伝コース】今年も四大戦の幕を飾るのは駅伝だ。1・5kmのコースを女子は4人の周、男子は4周する。1チーム4人で各校から2チーム出場が決まる方式だ。本学は昨年、女子は優勝、ともに2位の成績を収めていた。

午前10時、女子がスタート。本学Aチーム（第1走者は出遅れたものの、決して焦ることなく落ち着いた走りを見せ、すぐにトップに追い着く。一方、本学Bチームも猛烈に追い上げ、3位に着いた。

本学Aチームがトップのまま、たすきは第2走者へ。第2走者の内堀田選手（数4）は強気の走りで、2位との差を広げる。そこからは本学Aチームの独壇場。2位以下を大きく離してゴールした。本学Bチームも4位に入り、本学駅伝女子は昨年に続く堂々の優勝を決めた。

そして正午、女子優勝の余韻冷めぬまま、男子のレースが始まる。「1年間、負けた悔しさを忘れられませんでした」と本学Aチームのアンカー大野政史選手（法4・まさふみ）は、昨年の雪辱を果たすべく悲壮な決意を持って、このレースに臨んでいた。

スタート直後から本学Aチームが1位、本学Bチームが5位をキープ。盛んな声援が追い風となり、昨年の遅れをものともせず、見事に優勝へ。

昨年度、本学は正式種目では優勝したものの、一般種目では最下位になる敗北を喫した。総合得点で成績大きく重荷となった。その結果、昨年度の最下位から全幅に躍進した。

このように本学の優勝を決定づけた第55回大会であったが、今大会ではスローガンとして「絆」という言葉が掲げられていた。これは第1回大会からの四大戦本来の目的であり、根底に流れるものである。大会期間中、様々な競技で全力を出しぶつかり合い、試合終了後に笑顔で握手する選手たち。そこには確かな絆が生まれていた。そして試合中の選手たちと、それを応援する応援団や観客の一体感、この「絆」というスローガンにふさわしいものであった。

今大会で優勝したことにより常勝校としての信頼を取り戻すことができた本学。来年は一体どのような熱戦を繰り広げてくれるのだろうか。成城大で行われる第56回大会が今から楽しみだ。（倉原大輔）

意地を見せての総合優勝　第55回四大戦総評

22日、武蔵大学大講堂にて、第55回四大学運動競技大会の開会式が行われた。今大会では本学選手たちの優勝へかける想いもひとしおであった。

昨年度、本学は正式種目では優勝したものの、一般種目では最下位になる敗北を喫した。総合得点で成績大きく重荷となった。その結果、昨年度の最下位から全幅に躍進した。

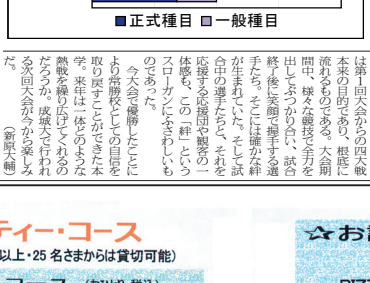
このように本学の優勝を決定づけた第55回大会であったが、今大会ではスローガンとして「絆」という言葉が掲げられていた。これは第1回大会からの四大戦本来の目的であり、根底に流れるものである。大会期間中、様々な競技で全力を出しぶつかり合い、試合終了後に笑顔で握手する選手たち。そこには確かな絆が生まれていた。そして試合中の選手たちと、それを応援する応援団や観客の一体感、この「絆」というスローガンにふさわしいものであった。

今大会で優勝したことにより常勝校としての信頼を取り戻すことができた本学。来年は一体どのような熱戦を繰り広げてくれるのだろうか。成城大で行われる第56回大会が今から楽しみだ。（倉原大輔）

正式種目は武蔵野、硬式庭球、バスケットボールの3種目が男女ともに優勝。バドミントンも男女ともに優勝へかける想いもひとしおであった。

一般種目においても、サッカー、ソフトボール男子、軟式野球、バドミントン男女がそれぞれ優勝するなど多くの種目で高得点を重ねた。その結果、昨年度の最下位から2位に躍進した。

こうして正式、一般の2部門を制した本学は、総合得点で2位の成蹊大に25点差を遠隔から発揮した。



演武会～心技一体の競演～

【22日　バスケットボールコート】秋晴れの空の下、合気道、空手、少林寺拳法による演武会が開かれた。

朝一番で行われたのは、合気道。朝の静寂をやぶって、豊をたた小気味よい音が辺りに響き渡った。そして、次々と展開されて幾多の技に観客は目を奪われていく。そこは四大戦行事、真剣さの中に、笑いも。しっかりと抑えられていた。「夏休みに彼女と愛の二泊二日旅行に出かけた」先輩という部員紹介のアナウンスには、観客から笑いが起き、真剣な選手の顔も思わず緩む。合気道の演武がすべて終わる頃には会場を暖かい日の光が包みこむ。演武会は天気にも恵まれ、上々のスタートを切った。

続いて豊の上に登場したのは空手部員の面々。数名交代で、流れるような地を披露した。

武は大学合同で行われた。乱取りはK-1ルールに基づき、激しい攻防が繰り広げられた。放たれた攻撃がクリーンヒットする度に、観客から歓喜の声上がる。互いに敬意の無い、力強い技の応酬は演武会を締めくくるにふさわしい迫力であった。

武道は礼に始まり、礼に終わる。種目は違うこの根源にあるものはどれも同じだ。今日一日で何回も礼を交わされた。

人間関係が薄くなりつつあるこの現代社会、我を忘れてはならないものが小さな豊の上にはあった。夕日に染まった若者たちの胸音は一段と輝いて人々の目に映った。その一寸の無駄もない、洗練された動きには日々積み重ねられた練習の成果がうかがえる。だが、観客を沸かせたのはこからである。ますは優るしい女子部員が木の板を豪快に叩き割ってみせると、間髪を入れず、武道は礼に始まり、礼に終わる。種目は違うこの根源にあるものはどれも同じだ。

次に空手の櫻井さんたちの出番だった。今日一日で何回も礼を交わされた。

パンフを見車、清原も奪く鋭い蹴りで、バットを見事に粉砕していく。そして、試割（ためわり）の締めくくりとして行われたは火炎瓦割りであった。積み上げられた瓦に火がつけられると、会場の緊張感は頂点に達する。川口女選手（日1）ついに、

個人戦で力を発揮　男子卓球

【23、23日　卓球場（学生会館）】今大会で11年振りに、卓球男子団体戦で優勝を逃した本学。そのため、個人戦で王勝へ進んだ井上知之選手（史4）の試合は異様な緊張感に包まれていた。

試合は11点制の5セットマッチ。3セットを先取した方が勝ちとなる。守備を主軸に試合をする井上選手は、試合前に、相手に粘り負けしないようにしたいと話していた。試合はまさにその通りの緊迫した展開となった。

井上選手は第1セット序盤から相手の攻撃をことごとく跳ね返し、相手のミスを誘っていった。しかし、相手も成蹊大のエース、簡単に倒せる相手ではなかった。そしてその終盤、相手に粘られ同点に追いつかれた。だが、井上選手は焦らなかった。逆に自分のプレーを続けることで相手が無理にミスを出し、第1セットを井上選手が勝ち取った。これで波に乗った井上選手は続く2セットも相手に粘り勝ち、3セットを手に入れた。

第3セット。勢いのそのまま、たすきは第2走者へ。第2走者の内堀田選手（数4）は強気の走りで、2位との差を広げる。そこからは本学Aチームの独壇場。2位以下を大きく離してゴールした。本学駅伝女子は昨年に続く堂々の優勝を決めた。

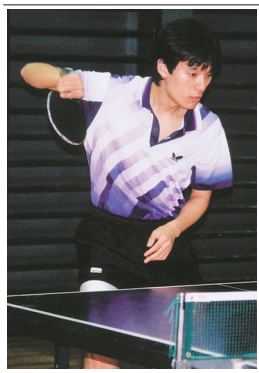
そして正午、女子優勝の余韻冷めぬまま、男子のレースが始まる。「1年間、負けた悔しさを忘れられませんでした」と本学Aチームのアンカー大野政史選手（法4・まさふみ）は、昨年の雪辱を果たすべく悲壮な決意を持って、このレースに臨んでいた。

スタート直後から本学Aチームが1位、本学Bチームが5位をキープ。盛んな声援が追い風となり、昨年の遅れをものともせず、見事に優勝へ。

昨年度、本学は正式種目では優勝したものの、一般種目では最下位になる敗北を喫した。総合得点で成績大きく重荷となった。その結果、昨年度の最下位から全幅に躍進した。

このように本学の優勝を決定づけた第55回大会であったが、今大会ではスローガンとして「絆」という言葉が掲げられていた。これは第1回大会からの四大戦本来の目的であり、根底に流れるものである。大会期間中、様々な競技で全力を出しぶつかり合い、試合終了後に笑顔で握手する選手たち。そこには確かな絆が生まれていた。そして試合中の選手たちと、それを応援する応援団や観客の一体感、この「絆」というスローガンにふさわしいものであった。

今大会で優勝したことにより常勝校としての信頼を取り戻すことができた本学。来年は一体どのような熱戦を繰り広げてくれるのだろうか。成城大で行われる第56回大会が今から楽しみだ。（倉原大輔）



期待通りの活躍をみせた井上選手

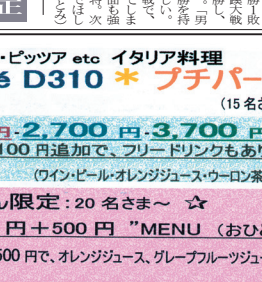
成蹊大に苦戦　男女バドミントン

【22、23日　大学体育館】「男女とも優勝を狙う」と、本学バドミントン部の杉原至将（法3）は試合前に闘志を燃やしていた。だが、もう一歩のところで及ばなかった。

本学男子の優勝は対成蹊大戦にかかっていた。第1試合は杉原主将のシングルス「主将で第1試合なので王冠を上げたい」と意気込む、本学バドミントン部の杉原至将（法3）は試合前に闘志を燃やしていた。だが、もう一歩のところで及ばなかった。

本学男子の優勝は対成蹊大戦にかかっていた。第1試合は杉原主将のシングルス「主将で第1試合なので王冠を上げたい」と意気込む、本学バドミントン部の杉原至将（法3）は試合前に闘志を燃やしていた。だが、もう一歩のところで及ばなかった。

本学男子の優勝は対成蹊大戦にかかっていた。第1試合は杉原主将のシングルス（数2）ペアは敗戦した。



狙いを定める村山選手

そして第4試合、ここで杉原主将・村山選手ペアがダブルスで本領を発揮。マッシュシャを打ちかえ、相手に連続得点させないが、その一方、自身の点数も稼ぎ、2点先取した。

2勝5敗で迎えた第5試合（第3試合）は勝利を収める。第3試合の福本敏也選手（法3）小中典武選手（法3）ペアは敗戦した。

序盤から気迫がこもった試合。激しい攻防。両者なかなか譲らない。相手に連続得点させないが、その一方、自身の点数も稼ぎ、2点先取した。

2勝5敗で迎えた第5試合（第3試合）は勝利を収める。第3試合の福本敏也選手（法3）小中典武選手（法3）ペアは敗戦した。

序盤から気迫がこもった試合。激しい攻防。両者なかなか譲らない。相手に連続得点させないが、その一方、自身の点数も稼ぎ、2点先取した。

2勝5敗で迎えた第5試合（第3試合）は勝利を収める。第3試合の福本敏也選手（法3）小中典武選手（法3）ペアは敗戦した。

こうして男子は3勝1敗で成蹊優勝。女子も成蹊大戦を落とすも、他は圧勝し、同じく準優勝だった。「男女ともに成蹊大に優勝を持っていかれたのが悔しい。キーとなる選手の敗戦で、他の選手に影響が出てしまったので、メンタル面も強化したい」と杉原主将。次こそは優勝をつかんでほしい。（学峯さとみ）

お詫びと訂正

前号（第191号・9月28日発行）に掲載しました2面コラム「英文メール入門」（法学部法2）に、誤りがありました。「ひさしぶり」の英訳は「long time know see you.」ではなく「long time no see you.」でした。読者の皆様にお詫びするとともに、ここに正記致します。

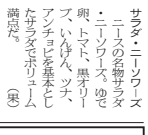
四大戦とは？

四大戦とは、本学、成蹊、成城、武蔵の4大学によって行われる大学対抗の競技大会だ。旧制高校の流れをくむ4大学が交流を深めるために、昭和26年、武蔵大の提案により本学第1回大会が開催された。以来毎年各大学の持ち回りで開かれ、今回で55回目となる。

大会は運動部が出場する正式種目、学問学術を勝ち進んだ学生が出場する一般種目、教職員が出場する教職員種目で構成されている。総合優勝は正式種目と一般種目の合計点で決まる。

4月の開幕式が終わると、多くの正式種目が期間外に行われるため、事実上の四大戦が始まる。まず4月からは、一般種目の学内予選もスタートし、運動系サークルを中心に本戦出場を目標にして競い合う。そして本大会で、残りの競技が行われ、各種目の優勝と総合優勝が決まる。

南仏からの便り



サラダ・ニーソワーズ
ニーソワーズ名物サラダ・ニーソワーズ、ゆで卵、トマト、黒オリーブ、いりしげん、ツナ、アンチョビを基本としたサラダでボリューム満点だ。（朱）

みんなでつかんだ栄冠

サッカー

執念でPK戦制す

【22、23日　朝霞サッカー・ラグビー場】石井雄一郎主将（経4）が率いるインディペンデンス（本学A チーム）が、各校の強豪を破り、念願の優勝を決めた。PK戦で成蹊大に逆転勝利し、観客席に大きな感動を与えた試合だった。

決勝前、石井主将は「ここまでA、B両チームのみんなもマネージャーも一生懸命頑張ってくれました。決勝も一丸になって優勝したいです」と熱く語った。

選手、応援団、観客を含めての大所帯の中、石井主将は本学がPKやK、能登選手（経3）、大谷選手（法4）、東広仲選手（経4）、この5人に本学の命運がかかる。

2、FWの能登邦博選手（経3）は決勝までゴールを量産しさきた本学のエースっ、前半、両校はお互いのチャンスが訪れない。後半は本学がPKやK、能登選手（経3）、大谷選手（法4）、東広仲選手（経4）、この5人に本学の命運がかかる。

ゴールを奪えず、0－0のままPK戦へ突入した。

本学は再度、大石陣営組それぞれ4人目まで終えて、それぞれ3人がゴールを決めた。本学は惜しくも敗れ、両校は4人目まで終えて、それぞれ3人がゴールを決めた。本学は惜しくも敗れ、主将がしたに試合は福島選手、井上選手、大平選手が大きなプレッシャーの中で、に当てての絶妙なもので、キーパーもまったく動じることができなかった。

そして、最後の5人目、これで長い試合に終止符が打たれる。成蹊大の選手が外し、本学の東選手の順番、グランドにいる大すべての視線が彼に集まり、固唾を飲む。東選手の右足から放たれたボールがきれいな軌跡を描き、ゴールネットに突き刺さる。この瞬間、本学の優勝が決まり、応援する人々がグラウンドへ走り、歓喜の輪を作り石井主将を、空高く胴上げした。

試合後、石井主将は「優勝できたのは本当に本当に、チーム全員のおかげです」と溢れる涙を拭いながら、優勝まで共に戦ってきたチームメイトたちに深く、感謝の言葉を語ってくれた。

インディペンデンスの決勝戦は、優勝への強い想いがなどの選手からもマネージャーからも見られ、石井主将の言う通りチーム全員で勝ち取った輝かしいものだった。周りで観戦していた人々の記憶にも、彼らの勇ましいプレーが「生涯残るはず」だ。（森谷信樹）

勝利を収め、爽やかな笑顔のインディペンデンス

男女共に3年連続優勝

男女バドミントン

【23日　大学体育館】厳しい選抜をくぐり抜けた中引間明選手（学習院女子大・自然文化2）、黒澤麻希も、3年連続優勝という、劇的な結果でバドミントン一般は幕を閉じた。

四大戦最終日、本種目はこの1日で結果が決まる。

「めじけん」の先輩・後輩の関係、この決勝戦では、2人の想いは一つだった。「互いを信頼しあう連携プレーで乗り切ろう。」

決勝の相手は成城大A、試合種目と違い、相手の力量は知数である。第1セットでは、試合日々、連続で本学が相手の隙を突き、ペースをつかむ。スピードは抗しつつも、引間選手・黒澤選手ペアの連携プレーに相手を乱れさせる。勢いに乗り、第1セットを10点以上差をつけて奪う。

しかし第2セットでは、1セット目とは対照的に、開始から連続で鋭いスマッシュを決められてしまう。相手も本学と同じように、学内の選抜を1位で通過したペアである。そう引間選手が感じたように、ここから相手しっ押されっつの接戦となった。

中盤、本学がやや形勢を持ち直したところに、相手に気の緩みによる連続の崩れが見られた。ここで主導権を取り戻すチャンスとなる。しかし「後半に同じペアなんです」との引間選手の目ら分析り、終盤には疲れが見え、シャトルがネットにかかるなど、凡ミスが重なった。

だが、「このセットを落としても次がある」などと、連続失点の際も冷静さを保ち、攻撃する意志を失わなかった集中力、そして2人の思の合ったプレー、これにより決勝戦を見事に、ストレートカウント2－0で勝利した。

「ゆっくり、焦らずが作戦でした」と黒澤選手、「優勝みない相手を洗ったい。（山田絵美）

息の合ったプレーを見せる黒澤（左）・引間ペア

新たなる王者の誕生

軟式野球

【22、23日　朝霞グラウンド野球場】四大戦2日目に行われた軟式野球決勝戦。ジョイスルの優勝の行方は、両校にとってはたかったのは、野球サークルとして本学最強との誉れ高いマイスター。皮肉にも本学同士の対戦となった。

ジョイスルの攻撃で始まった1回表、気合の空振りから小足に終る。続く2回表も、なかなかチャンスを活かせず、両者無得点。

しかし3回表、先頭打者の岩本泰広選手（経3）のヒット境に、試合はいよいよ動き出す。続く小川村宏平選手（政2・しょうへい）の鋭い打球が3遊間を抜けたヒットを、攻撃を翻弄し、なかなか出塁を許さない。

4回表でも3点を獲得し、回が終つた時点で7－0、ジョイスルの勝利は、ほぼ決定的となった。

試合の流れはジョイスル側に傾く、勢い付いたのか、最後の打者を三振に押さえ、ストレートでゲームセット。

ジョイスルにとっては、マイスター戦での初白星。野球で初の四大戦優勝、初めてづくしの軟式野球だった。

果に、「まさか優勝できるとは思っていませんでした」と、金沢選手（政2・けん）も驚きを隠せなかった。例年、マイスターに本塁独壇場であった「一般軟式野球に、新しい時代をもたらした勝利といえるだろう。（柳川香里）

勝利に大きく貢献した駿河投手

苦折乗りこえ優勝

男子ソフトボール

【23、24日　朝霞グラウンドアイアント場】「決勝戦よりも、準決勝の学習院Aとの試合の方が緊張しましたね。僕たちの目標は学習院Aを倒すことだったんだ」学習院Aに勝利した、主将（済4）は語ってくれた。

決勝戦は四大戦2日目に行われた。本学Cチーム（ジョイスル）の対戦相手は成城大A、シード権を獲得し、順調に勝ち進んできた実力あるチームだ。しかし、7－0で本学が3回コールド勝ちしたこの試合、初回に勝敗が決まったようなものだった。

1回表の攻撃、フォアボールで1塁に進む。盛高主将が早々にヒットを打ち、2塁3塁。フォアボールでまた出塁、満塁のチャンス。ここでまたもフォアボール、押し出しで点を先制する。そして意気上がる本学が大石和宏選手（政4）、緊張するこの場面で、相手の投げたボールをしっかり見極め、見事本塁打を打つ。一気に4点を追加する。

こうなっては完全に本学のペース。守りに入っても、本学ピッチャーの剛速球により、成城大はタイムリーヒットが出せずに1回裏は終了する。

2回表、更に2点追加し、点差が開いたまま3回裏に突入する。この回、加藤希介投手（政3）のピッチングに乱れが目立ち、連続でフォアボールを出してしまう。だが、本学の見事な送球でアウトをもぎ取る。三塁に出塁されるが、院内戦3位通過というギリギリ学習院大戦優勝に先輩たちの男姿を見て一緒に戦った後輩達が来年も変わらぬ結果を出してくれるだろう。（山田絵美）

完封勝利を成し遂げた加藤選手

一般種目

教職員種目

【24日　高・中体育館】4年種目に劣らない熱戦が繰り広げられている。今回はバレーボールの3位決定戦、対成城大の模様をお伝えしよう。

——頑張ってー！　と応援さまれ先制したのは本学。

これには、やる気もうなる登場。

この教職員種目はソフトボール、硬式庭球、バレーボールの3競技からなり、毎年強烈なタックで相手コートへ切り込んだ。

というもの、さらに試合がくりかえされ、学生側負けの展開からきまいに上がったトスを、学生側負けの大声援、もはや誰も選手を止めることはできない。豪快なアタックやファインプレー続出の圧倒的な勢いで、本学第1セットを先取する。

しかし、成城大の教職員にたって意地がある。学生の前で無様な姿は見せられるもの。第2セットに入り猛反撃。しかし本学の教職員は気合いの析が過った。第2セット中盤、なんとまさかの大逆転。ここまでの流れは、本学の教職員の方に傾いていたはずだった。

しかし、ここで成蹊大の教職員の方が、ペースをつかむ。スピードは抗しつつも、引間選手・黒澤選手ペアの連携プレーに相手を乱れさせる。勢いに乗り、第1セットを10点以上差をつけて奪う。

しかし第2セットでは、1セット目とは対照的に、開始から連続で鋭いスマッシュを決められてしまう。相手も本学と同じように、学内の選抜を1位で通過したペアである。そう引間選手が感じたように、ここから相手しっ押されっつの接戦となった。

中盤、本学がやや形勢を持ち直したところに、相手に気の緩みによる連続の崩れが見られた。ここで主導権を取り戻すチャンスとなる。しかし「後半に同じペアなんです」との引間選手の目ら分析り、終盤には疲れが見え、シャトルがネットにかかるなど、凡ミスが重なった。

だが、「このセットを落としても次がある」などと、連続失点の際も冷静さを保ち、攻撃する意志を失わなかった集中力、そして2人の思の合ったプレー、これにより決勝戦を見事に、ストレートカウント2－0で勝利した。

「ゆっくり、焦らずが作戦でした」と黒澤選手、「優勝みない相手を洗ったい。（山田絵美）

先生だって負けられない

先制したのは本学。

この教職員種目はソフトボール、硬式庭球、バレーボールの3競技からなり、毎年強烈なタックで相手コートへ切り込んだ。

というもの、さらに試合がくりかえされ、学生側負けの大声援、もはや誰も選手を止めることはできない。豪快なアタックやファインプレー続出の圧倒的な勢いで、本学第1セットを先取する。

しかし、成蹊大の教職員にたって意地がある。学生の前で無様な姿は見せられるもの。第2セットに入り猛反撃。しかし本学の教職員は気合いの析が過った。第2セット中盤、なんとまさかの大逆転。ここまでの流れは、本学の教職員の方に傾いていたはずだった。

しかし、ここで成蹊大の教職員の方が、ペースをつかむ。スピードは抗しつつも、引間選手・黒澤選手ペアの連携プレーに相手を乱れさせる。勢いに乗り、第1セットを10点以上差をつけて奪う。

しかし第2セットでは、1セット目とは対照的に、開始から連続で鋭いスマッシュを決められてしまう。相手も本学と同じように、学内の選抜を1位で通過したペアである。そう引間選手が感じたように、ここから相手しっ押されっつの接戦となった。

中盤、本学がやや形勢を持ち直したところに、相手に気の緩みによる連続の崩れが見られた。ここで主導権を取り戻すチャンスとなる。しかし「後半に同じペアなんです」との引間選手の目ら分析り、終盤には疲れが見え、シャトルがネットにかかるなど、凡ミスが重なった。

だが、「このセットを落としても次がある」などと、連続失点の際も冷静さを保ち、攻撃する意志を失わなかった集中力、そして2人の思の合ったプレー、これにより決勝戦を見事に、ストレートカウント2－0で勝利した。

「ゆっくり、焦らずが作戦でした」と黒澤選手、「優勝みない相手を洗ったい。（山田絵美）

4位以上の試合結果

【正式種目】

【柔道】
4位
【卓球】
男子団体2位

【一般種目】

【硬式庭球男子B】
A チーム4位
【硬式庭球女子D】
C チーム2位
【硬式庭球混合】
A チーム3位
【サッカー】
B チーム4位
【軟式庭球男子B】
B チーム4位
【硬式庭球女子D】
C チーム2位
【軟式庭球混合D】
A チーム4位
【軟式野球】
A チーム2位

【教職員種目】

【硬式庭球】3位
【ソフトボール男子】
A チーム3位
【ソフトボール女子】
2位
【バスケットボール男子】
A チーム3位
【バスケットボール女子】
2位
【バレーボール男子】
A チーム3位
【バレーボール女子】
A チーム2位
【卓球男子】
A チーム2位
【卓球混合】
A チーム3位
【卓球女子】
2位

今年度四大戦での本学の各競技得点

正式種目

競技	得点
アイスホッケー	3
アメリカンフットボール	2.5
駅伝（男）	4
駅伝（女）	4
弓道（男）	3
弓道（女）	4
剣道（男）	3
剣道（女）	4
硬式庭球（男）	4
硬式庭球（女）	4
硬式野球	2.5
ゴルフ	2.5
サッカー	1
自動車	2.5
柔道	1
水泳	2
水球（男）	3
スキー（女）	2
スキー（男）	3
漕艇	2
卓球（男）	2

一般種目

競技	得点
馬術	2.5
バスケットボール（男）	4
バスケットボール（女）	4
バレーボール（男）	4
バレーボール（女）	4
バドミントン（男）	3
バドミントン（女）	3
ハンドボール	2
ホッケー（男）	2.5
ホッケー（女）	1.5
洋弓（男）	4
洋弓（女）	1
ヨット	3
ラクロス（男）	3
ラクロス（女）	4
ラグビー	3
陸上競技	4
合計	109.5
硬式庭球D（男）	3
硬式庭球D（女）	3
硬式庭球D（混）	3

教職員種目

競技	得点
サッカー	4
ソフトボール（男）	4
ソフトボール（女）	3
卓球（男）	2
卓球（女）	3
卓球（混）	3
軟式庭球（男）	2
軟式庭球（女）	2
軟式庭球（混）	4
軟式野球	2
バスケットボール（女）	3
バスケットボール（男）	2
バドミントン（女）	3
バドミントン（男）	4
バレーボール（女）	3
バレーボール（男）	4
合計	56
硬式庭球	2
ソフトボール	4
バレーボール	2
合計	8